

《 特 選 》

自己学習能力を育てる工夫

会津若松市立行仁小学校教諭

目 黒 豊 光



一、研究の趣旨

算数科目の目標を少しでも達成させてやりたいと願い、筋道を立てて考え、処理する能力と態度を育成するために、教育機器を活用することの研究を進めてきた。特に「見通す」段階を重視した、OHPと反応分析装置との複合利用による指導を続けた結果、前記の能力と態度が、少しずつ身につけてきているようである。

今日の学校教育に期待されているものは、断片的な知識・技能ではなくて、組織的な・確実な〈学ぶ力〉の生涯にわたって持続する能力だといわれている。それ故に、教師が毎日の算数科の授業で目指すものは、筋道を立てて考え、処理する能力と態度を基盤として、児童の自己学習能力をいかに育てるかであると考ええる。このことは、現在において最も重要な、学ぶ態度の育成にかかわることであるとともに、やがては「生涯学習」の基本となることである。

現実の児童に目を移したとき、主体的に学んでいく姿勢が足りないことは否定できない事実である。ややテーマが大きすぎるくらいはあるが、今までの研究の上に立って、少しでも自己学習能力を身につけた児童を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

二、研究仮説

一 単元、あるいは一単位時間の学習において、学習の計画を立て、「プラン」<sup>(2)</sup>、実行（解決）し、「ドゥー」<sup>(3)</sup>、評価する（シー）という一連の学び方を学習習慣として身につけさせれば、学習のひとり立ちができ、自己学習能力が育つであろう。

(1) プラン

- ① 一単元における学習計画
- ② 一単位時間における解決の計画

(2) ドゥー

- ① 自力解決と集団思考による学習の深化
- ② つまずき解消のための補説の場の設定

(3) シー

- ① 一単元における自己評価
- ② 一単位時間における自己評価

三、研究方法・内容（省略）

四、研究の概要

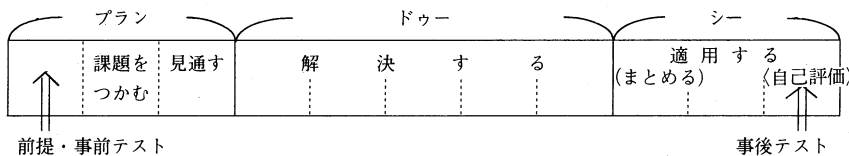
まず、自己学習能力は、次の四つの側面から構成されていると考えられる。

- 学習目標を見つけていく力
- 学習方法を見つけていく力
- 学習を自分の意志で進めていく力
- 学習の過程や結果を評価していく力

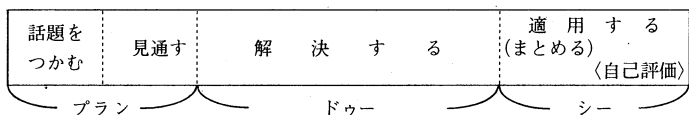
(一) 自己学習能力を育てる全体構造

資料1 自己学習能力を育てる全体構造

〈1単元の学習過程〉



〈1単位時間の学習過程〉



学習のプラン・ドゥー・シーとは、広義には一単元を通して、狭義には一単位時間の中で身につくものである。

(二) プラン（学習計画）の立てさせかた

児童が意欲的に取り組むときは、学習課題を明確につかみ、何をどうする